

而して事を助け給ひしは少名彦の神なり、されば御心を留め給ひし黒崎小字關にある要石を奉崇して、其社を宿那彦像石神社とし、兩社共に大吞六合の總産土神として崇敬す、されば天平寶字八年勅使藤原永平を以て兩社再興の宣旨をも給はり、社僧施樂寺神主大島氏外四十八人及神事奉行等を定めて、中世頗る盛大を極めたりと、天正年間上杉の兵火を蒙りて記録社傳等を失ふと雖も、唯舊神官善藏の遺書等により其の一端を窺ふべし、又山崎村外七十三ヶ村殊に當社を尊敬し、人民の信仰も深しと云ふ、近世に至る迄大吞二十ヶ村の祭禮として、正月六日祈年祭を執行し、其大玉串を必ず地方廳へ獻納する等の古式を存せしが、明治五年より此例廢止せり、明治十四年郷社に列す。

建物は本殿、拜殿、幣殿にして、境内三千四百坪の廣きを有し、(内四百四十坪官有地第一種 三千坪 民有地第一種) 境内は一小丘にて、東は有磯海を望み、西は石動山脈に連り、二丈内外の古杉蒼々として枝を交へ、四季の眺望に富めり、寶物には神鏡あり延喜時代のものと傳ふ。

境内神社 金刀比羅神社 東枝神社

例祭日 四月二日

會計法適用 明治四十一年九月十九日
指定年月日 縣令第八十二號

神饌幣帛料供進 明治四十一年四月八日
指定年月日 告示第百十六號
氏子戸數 百十四戸
崇敬者員數 八百六十人

石川縣加賀國石川郡出城村大字北安田郷社 安田春日神社

祭神 武甕槌命 齋主神 天兒屋根命 比賣神

創建年代詳ならずと雖も、往昔より安田保大明神と稱したりしを、醍醐天皇延長年間加賀國守たりし藤原某大和奈良の春日明神を勧請して下國し、安田春日神社と稱せり、而して壽永二年土人士肥清左衛門守護の八幡神を當社に合祀し、承久中安田惟光其子林家朝神田を寄附し、天正中松任城主鏑木氏社殿を再建して別當を置けり、鏑木氏家書に據るに、天正中松任の城主鏑木岩見守頼信の支族寶篋院永壽法師安田神社別當に補せられ、御末裔累世奉仕して今日に至れりと、又天正十九年永壽法師神託に依りて製藥二法を發明す、今齋く所のカンロン藥即是也云々とあり。

建物は本殿、拜殿、幣殿、社務所、神饌所等にして、境内四百廿八坪(官有地第一種)を有し、社内に巨松あり、清龍松と名づく、そは壽永二年平家の土土肥清左衛門篠原に敗れ、當村に落ち來りて土着し、之を植ゑし者なりと、又藤花の時季遊覽に適せり、寶物には六個の神鏡刀等を有す。

境内神社 八幡社 菅原社 諏訪社 白山社

例祭日 四月七日

會計法適用 明治四十一年九月十九日
指定年月日 縣令第八十二號

神饌幣帛料供進 明治三十九年十二月廿九日
指定年月日 告示二百九十二號
氏子戸數 百三十二戸
崇敬者員數 二千五百七十五人

石川縣加賀國石川郡二塚村大字神谷郷社 左奇神社